

【提案シートの内容】	生徒からの質問	【質問に対する市長の考えなど】	担当課
<p><b>【幡豆のアサリの活性化と更なるブランド化を考える】</b>                  家の近くに潮干狩り場があり、毎年ゴールデンウィークには潮干狩りを楽しむ人でにぎわっています。小さい頃、アサリを採ったり、近所の人からいただいたりと潮干狩りに親しんできました。アサリを使った料理はどれもおいしく、採ったアサリを家族で食べるのがとても楽しみでした。現在、愛知県は、全国的に見てもアサリの漁獲量が多い地域です。その中でも三河湾のアサリは、他県のアサリに比べて、とても質が良いということで有名で幡豆の誇りです。しかし、近年は、アサリが不漁で潮干狩りを行う事が出来ない年がありました。シーズン中にぎわっている干潟にはまったく人がいなく閑散としており、潮干狩りシーズンとは思えないさみしい光景でした。令和元年是実施することができたのですが、漁獲量は1万トンを割り減少傾向にあります。</p>	<p><b>【質問1】</b>                  幡豆のアサリを使ったアイデア料理を市内の中学生などから広く募集し、市内飲食店と提携して商品化することは、ブランド化を推進すると思いますがいかがでしょうか。</p>	<p><b>【市長】</b>                  シーズン中は、岐阜県や長野県などから潮干狩りに来る人がたくさんいます。幡豆のアサリ、三河湾のアサリは本当にブランド力を持っていると思います。中学生などからアサリを使ったアイデア料理を募集する取組は面白いアイデアだと思います。平成24年度にアサリを使ったアイデア料理について、市内の中学生、高校生を対象にコンテストを実施しました。市ホームページで当時の入賞作品のレシピが閲覧できるのでまた検索してください。今後、アイデア料理を募集するなどの取組は考えてもいいことだと思いますが、それ以前にアサリが獲れない状況となっていることが大きな課題です。アサリが獲れない限りは、アサリのPRや、レシピを作ったところでどうするかという話になってしまいます。今はアサリが以前のように獲れるような環境を作ることに全力を注いでいきたいと考えています。</p>	<p>農林水産課</p>
<p><b>【提案1】</b>                  幡豆地区のアサリをもっと多くの人に知っていただくために、アサリを使ったオリジナル料理を募集してはどうでしょうか。また、飲食店と提携して商品化し、売り出すのはどうでしょうか。私たちは昔からアサリをよく食べてきたので、アサリを使ったアイデア料理を考えることができると思います。アイデアレシピを考え、食べてもらうことで、さらにブランド化できるのではないかと思います。また、幡豆の地域資源であるアサリを守るためにできることは、私たち中学生も協力したいと考えていますので、環境保護や漁場環境の回復などのボランティア活動も進んで行ってみたいと思っています。まちのための活動は、ボランティア精神も育まれますが、何よりまちづくりに関わったという中学校時代の思い出にもなり、自信にもつながると思います。</p>	<p><b>【質問2】</b>                  アサリの減少は深刻な問題だと思いますが、その原因について、現時点でわかっていることを教えてください。また、アサリの減少を防ぐために、中学生でもできるボランティア活動はありますか。</p>	<p><b>【市長】</b>                  アサリ減少の原因のひとつは、カイヤドリウミグモという有害生物が発生した影響があると言われています。その他には、下水処理事業の変化によりきれいな海が実現されたことです。一般的に生活排水を川に流すことは環境上良くないことですが、実は生活排水中に栄養分があります。以前は、海洋ゴミの問題もありましたが、一方で栄養分が豊富だったと言われています。海がきれいになり過ぎてしまいアサリのエサであるプランクトンが減少してしまいました。ここ数年になりますが、ウミグモという有害生物の駆除を行っています。駆除活動の成果も少しずつ出てきており、今年はその量が減少しているようです。また海中に含まれるリンの濃度を少し上げてプランクトンが発生しやすい状況にするなどの取り組みを行っています。平成25年、26年ぐらいが一番アサリが獲れた時期で、ピーク時に比べまだまだ落ち込みが回復していない状況であり深刻な問題です。市としても愛知県や漁協など関係機関と協力して原因を突き止め対策を講じ、アサリをブランド化を図っていきます。                  ボランティア活動については、東幡豆海岸で、毎年、春から夏にかけてツメタ貝という貝の卵が干潟のあちこちに見られます。茶碗のような形をしておりその中に3万~5万くらいの卵が入っているようです。漁師の皆さんが手で拾っているようですが人手が足りないということです。もし協力してもらえれば、市農林水産課に相談していただければ漁協と調整しお手伝いしていただくことも可能だと思います。また、潮干狩りをすると干潟の砂がかき混ぜられ、結果として海底に酸素が行くそうです。潮干狩りをやるだけでもプラスの効果があるということなので、潮干狩りシーズンにはぜひ足を運んでいただければと思います。</p>	<p>農林水産課</p>